



長寿福祉課係長 **平尾 かつよ** 勝代 (訪問健康相談業務)

作って待つておられる中には、先が見えない不安から涙ぐまれる方もおられました。私たちが受付をしていると「遠いところから来てくれてありがとう」という言葉をかけていただき、逆に励まされ、少しでも力になれたらと思います。

平尾 保健師は、直接地域へ出向き、健康相談のほか被災体験や現在の不安などいろいろな話を聞かせていただきました。活動では、それぞれの市の保健活動の進め方があるので、大船渡市の保健師さんの指示を守り、ともに活動に取り組みました。また、相談を受けた内容については、できるだけ詳細にまとめ、後に活かしていただけることをポイントにおいて引き継いでできました。

西川 現地で活動するボランティアや関係機関も多くありましたが、業務の上で混乱することはありませんでした。ただ、初動は、日本水道協会の指示で動いたのですが、被災直後のため正確な状況把握ができず、その指示が現状の要望と食い違ってしまうこともありました。全体の動きが分からない状況の中で、現場の判断で動くこともできないため、本場に必要などころにすぐに支援に行けないもどかしさを感じたことはありました。

自分たちのまち という強い思い

林 担当地区の瓦礫撤去では、解体業者も市役所職員も所有者の方も連携がとれていて、住民の方にも協力いただき、特に混乱無く進めることができました。震災により仕事

組むべきだと思えます。経験していないと、想像すらできないことがあります。例えば一斗缶がそうです。避難所の運営で、煮炊きや哺乳びんの煮沸などに使えて重宝したそうです。備蓄品の中に一斗缶を加えるような小さな気づきや些細なことの積み上げが大事だと思います。

みんなが助け合う 姿勢感じた

平尾 市民の意識で言えば、大船渡市では、「必ず津波は来る」という危機感を持っておられ、地域で防災リュックを揃えていたり、訓練や災害時の対応を話し合っておくなど、

無くなった方を市が募って、市から現場の業者のもとに派遣される形で被災者の雇用を確保されており、この仕組みは参考になると思います。

平尾 医療保健チームでは、医療チーム・心のケアチーム・保健チームに分かれて活動していますが、必要な相談を受けられるよう調整し、ニーズによって最適な担当に繋ぐなど連携がとれるよう工夫されています。

陰山 市の職員の中にも被災している人がいましたが、行政の通常業務や災害対応の仕事をしなければならず、2か月間、ほとんど休めていない状態で、かなり疲労されている様子でした。

藤森 大船渡市の市民生活環境課には8月から支援活動に入りましたが、震災後ずっと休みをとれていない大船渡市職員に、交代で休みをとってもらうことができたのは良かったです。来庁される市民の方も理解がありました。

林 5月の時点で、大船渡市職員は、日中、瓦礫撤去など震災の対応を

自分たちでできる防災の取り組みを普段からしている地域がありました。地域コミュニティの大切さ、地域のつながりの素晴らしさを感じました。

特に大船渡市では、地域単位で仮設住宅に入居してもらったり、近所づきあいが壊れないよう工夫されていました。

林 大船渡市も甲賀市のように近所の付き合いや地域のつながりが深く、甲賀市の区長にあたる役員の方が、地域のことをほとんど把握されているため、家屋取り壊しの際などは、窓口として所有者とすぐに連絡が取れる状態を整えていただいています。地区のみんなが助け合っていますという姿勢を感じました。



農業振興課主査 **林 まこと** 誠 (瓦礫撤去監理業務)

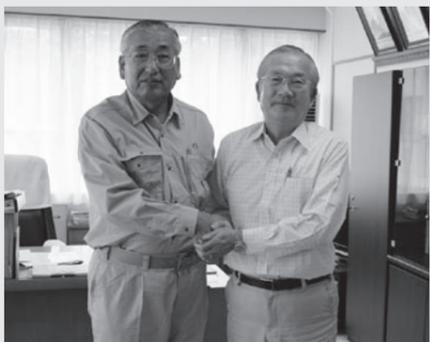
平尾 地域の役員の方が、瓦礫の中から見つかった写真や思い出の品を取りに行けない高齢者の方の所へ届けられるなど、地域の方のために献身的に活動されていたのが印象的で

甲賀市これまでの活動

- 3月11日 地震発生、甲賀市災害警戒本部会議を設置、24時間体制で情報収集を行う。後に甲賀市災害支援本部会議に改め、5つの専門部を設ける。10月19日までに計12回の会議を開き、支援体制の方針の決定などを行う
- 3月12日 日本水道協会の要請により、職員と給水車を東北方面へ派遣、計12名が宮城県栗原市、岩手県大船渡市で活動。3月22日終了。
- 4月4日 支援物資を滋賀県を通じ、福島県災害対策本部へ送る



- 4月20日 支援物資を震災直後に給水活動を展開した岩手県大船渡市に輸送し、安田副市長が大船渡市戸田市長と面談。市長からの親書を届け、同市を限定し継続的な支援を行うことなどを決定する
- 4月22日 滋賀県要請による保健師の派遣開始。計5名が福島県田村郡、郡山市で活動。9月1日終了
- 5月9日 大船渡市への人的支援を開始。土木・建築関係、保健師、ケースワーカーを7月31日まで計36名を派遣
- 5月15日 支援物資を大船渡市へ輸送
- 7月22日 中嶋市長が大船渡市を訪問し、戸田市長と面談。継続支援の要請を受け、3か月の延長を決定



- 8月1日 戸籍関係事務、義援金等受付事務、保健師チーム(保健師・一般事務)の支援を開始。計38名が派遣され、10月31日、大船渡市への人的支援を終了